

第2学年 生活科の実践

1. 単元名 「作ってあそぼう」

2. 単元目標

身近にあるものを使って動くおもちゃを作り、友だちと競争したり、工夫を教え合ったりしながら、自分なりに改良することを通して、動くおもちゃの面白さや不思議さを実感するとともに、遊び方を工夫しながら、みんなで遊びを楽しむことができる。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

【聴く・話すについての指導】

本学級では、全体的に話し合いになると自分の考えを持ってずに受け身になってしまう児童が多い。積極的に発言をする児童同士の話し合いになってしまうこともあった。そこで、自分の考えに自信を持って友だちに発言することができるようになるために、朝の会での簡単なスピーチをしたり、学習の中で発表の場面を多く設定し全員が発表できるようにしたりと、自分の考えや思ったことを伝える場面を意図的に多く設定してきた。みんなの前で話す経験を積むことで、話し合いの場面に参加することができるようになると考えられる。さらに話し合いの場面では、似ている考えのときは「〇〇さんと似ていて～」や「〇〇さんと同じで～」など学習の進め方を指導し、考えが似ているときや同じときでも発言していいという雰囲気を作っている。自分とは考え方が違うときには「違う！」と否定するのではなく、「でもさ～」や「だけど～」など相手の考えを受け入れつつ自分の考えを伝えるようにし、お互いが高め合えるよう指導してきた。また、話すときは友だちの方を向いて聞き取りやすい声で話し、聴くときは耳だけではなく体に向けたり目に向けたりするように、話し方や聴き方のルールを決めて学習を行ってきている。それでも教師に向かって話していたり、話している人のことを見ていなかったりと、まだまだ定着していないが、徐々に子どもたちの中でそのような姿勢が見られるようになってきている状態である。

【関わり合い・ひびき合い】

話し合いでは、全体で話し合う前に、まずは自分の考えを持つ時間を設けている。自分の考えを持っていないとなかなか話し合いには参加することができない。自分の考えを少しでも持つことで、ペアやグループでの活動をする際に、より友だちと関わるができるようになるからである。また、ペアやグループでの活動を取り入れることで、自分とは違う考えに出会い、「〇〇さんと同じ考え方だ。」と自分の考えに自信を持ったり、「〇〇さんの意見を聞いて考えが変わった。」と自分の考えを見つめ直したりするきっかけになることもあった。

しかし、まだまだ自分の考えを伝えただけで満足している児童も多くいる。より深い話し合いにするために、聴く態度とともに、良い意見に対しては教師が意図的に少し大げさな反応をしてみたり、繰り返してみたりと支援を行うことで、ただの発表会にならないように指導している。

4. 単元と指導について

【単元について】

本単元は、学習指導要領の内容（6）を受けて、自分たちの身近にあるものを活用して、簡単な仕組みで動くおもちゃを作るとともに、みんなで作り方や遊び方を工夫しながら楽しむことをねらいとした単元である。そこで、本単元の最後には「おもちゃセンター」を開いて、1年生におもちゃで遊んでもらう活動をする。そこでは、身近なものを使っておもちゃを作ったり、みんなでルールを作って遊んだりする面白さを感じ

じることができる。また、試行錯誤しながら作ったり考えたりすることを通して、「どうして上手くいかないのだろう。」「もっと速く走らせたい。」などの思いをもつことができるだろう。そういった児童の思いを大切に学習を進めていくことで、「タイヤの向きが斜めだからいけないのか。」「風を受けるところが小さいからだ。」などの様々な気づきから、よりよい活動につなげていきたいと考えている。

さらに本単元では、子どもたちの「おもちゃで遊びたい。」「1年生を招待して楽しんでもらいたい。」という思いを実現するために、自分たちでめあてや計画を立て、進めていけるようにする。その中で、友だちと一緒におもちゃを工夫したり改良したりすることで、身近にあるものがもつ不思議さや面白さを味わい、科学的な見方や考え方の基礎を身につけることができると考える。

【指導について】

本単元の導入では、「おもちゃを作りたい!」「おもちゃでゲームをしたい!」「1年生を招待したい!」など、前年度に自分たちが招待してもらったことを思い出しながら、自分たちはこうしていきたいという児童一人ひとりの思いから始まっていく。また、4月には「1年生でやったことをレベルアップさせたい。」という思いや、「おもちゃづくり」も2年生では「動くおもちゃづくり」にレベルアップしたいといった思いも抱いていた。そこで、「1年生に楽しんでもらうために動くおもちゃをつくろう!」という学習のめあてを児童らで決めていくと考えられる。どの児童もいろいろなおもちゃを作って遊びたいという思いも出てくると考えられるが、「1年生に楽しんでもらいたい。」という思いを強く抱いていくだろう。学習が進んでいっても、常に学習のめあてを確認させることで児童の意識を高めていきたい。そうすることで、子どもたちの中で「2年生のおもちゃ楽しかったと言ってもらいたい。」「喜んでほしい。」という気持ちが芽生え、「1年生に楽しんでもらうためにはどうしたらいいのかな。」という疑問が生まれ、「みんなで話し合いたい。」という解決したい切実な問題になると考えられる。

また、それらの活動で子どもたちがより考えに深まりをもつために、以下の4つの点を指導のポイントとして大切にしていきたい。

【児童の思いを大切に】

本単元の指導で大切にしていきたいものは「児童の思い」である。児童はおもちゃで遊びたいという思いとともに、「1年生を招待したい。おもちゃセンターを開きたい。」という思いをもちながら学習を進めていく。学習が進むにつれて、「もっと遠くに飛ばしたい。」「もっと速く走らせたい。」という思いや、「うまくいかない。」「どうしたらいいのだろう。」という思いをもつことになると考えられる。それらの思いを大切にしながら学習を進め、自分たちで十分におもちゃを楽しむことができれば、導入時に出てきた「1年生を招待したい。」や「1年生に楽しんでもらいたい。」といった思いも、より切実なものになっていくと考えられる。

【友達と協力する経験を持たせる】

周りの友だちのことを考えて行動することが難しい児童にも「1年生に楽しんでもらう。」「みんなで楽しむ。」ということを意識できるようにしたい。そのためには同じ種類のおもちゃを作る友達同士でグループにしていく。近くで同じ材料や道具を使って作業をしていると、困ったときすぐに教え合うことができると考えられる。自然と協力できるような場の設定をしていきたい。また、普段学習に意欲的に取り組めない児童も、友達と相談したり遊んだりすることを通して、意欲的に活動に取り組めるようにしていきたい。

【見通しを持たせる】

毎時間の内容や話し合ったことを模造紙にまとめ、クラス内に掲示しておくことで、本単元のめあてや今までの学習の流れを意識したり確認したりできるようにする。以前に国語の学習で「きつねのおきゃくさ

ま」の学習をした際にも、場面ごとの流れや児童の発言を模造紙にまとめ、クラス内に掲示しておいたことがある。模造紙を見ながら学習を進めることで、既習の事柄と結びつけて本時の問いに迫ることができていた。本単元でも、児童の思考のつながりを大切に、見通しを持って取り組めるようにしていきたい。

【他教科との合科】

本単元の中には、おもちゃの作り方を調べ説明する場面がある。そこで国語の「作り方を説明しよう」の単元との合科を図っていきたい。自分で調べたことをメモしていくときや友達に作り方を説明するときなどに、既習の箇条書きやナンバリング、または事柄の順序などの技能を用いることで、よりよい説明となるように指導していきたい。

本時では、「1年生に楽しんでもらうためにはどんな準備が必要だろう」という問題について話し合っていく。子どもたちはこれまでおもちゃを作ったり、そのおもちゃでゲームをして遊んだりしている。その中で、最初から常に1年生のことを考えておもちゃを作ってきた児童もいれば、おもちゃづくりや自分で遊ぶことに夢中になっていた児童もいるだろう。準備で必要なことについて考えを持ち、相手の考えの良いところを受け止めながら、自分の考えをより良くしようとする姿を、ひびき合いの姿としたい。そのために、話がずれてしまいそうなときには立ち止まり、みんなで決めた学習のめあてを確認するよう声をかけることや、「そっか!」「なるほど!」「でも…」などの言葉を教師が拾ったり認めたりするようにしていきたい。

5. 単元構想

第2学年 生活科 「うごく おもちゃセンター」

単元 目標	身近にある材料を利用して動くおもちゃをつくり、友達と工夫を教え合ったり、競争したりしながら、自分なりに改良することを通して、動くおもちゃの楽しさを実感し、みんなで協力すればより楽しく遊べることに気づくことができる。
------------------	---

導入前 「2年生の生活科ではどんな学習がしたいかな」

- ・1年生を学校案内したい
- ・町たんけんをしてみたい
- ・野菜を育ててみたい
- ・昔あそびがしたい
- ・前の2年生みたいにおもちゃを作って、1年生を招待したい

今の3年生に工夫を聞いてみてもいいかも…

身近な材料を使って、おもちゃを作ろうとしている。(関・意・態)

おもちゃを作って1年生を招待したい!①

どのおもちゃも動いていたよ!

でも、自分たちの力で作ってみたい

- ・去年の2年生はおもちゃランドを開いていたよ。
- ・ロケットみたいなのがすごく楽しかった。
- ・ゴムを使ったおもちゃがあったな。
- ・他にもペットボトルとか牛乳パックも使っていたよ。
- ・自分たちで作りたいけど、作り方がよくわからない。
- ・このおもちゃなら知ってるよ。
- ・教科書に書いてあるよ。
- ・本に載っていると思うな。
- ・コスモスで調べたい。

作るおもちゃを決め、動く仕組みを考えながら工夫して作っている。(思考・表現)

材料や作り方を調べてみよう②③④

- ・ペットボトルを用意しなくちゃ。
- ・牛乳パックが必要だな。
- ・ダンボールは家にあるかな。
- ・キャップに穴を開けるにはきりが必要だね。
- ・缶は家にありそう。
- ・家で使えるものはないか探してみよう。
- ・竹ひごとストローを持ってこよう。
- ・マヨネーズの容器も使えそうだな。
- ・紙コップも使いたい。
- ・調べたことをメモしたいな。
- ・これは動くおもちゃかな。
- ・これならおもちゃを作れそう。

ワークシートを用意し、必要な材料や作り方をメモし、一人ひとりが材料を用意できるようにする。

似たおもちゃを作る人同士でグループを作り、教え合いやすいような環境にする。

自分や友達のおもちゃをよりよくするため工夫を考えている。(思考・表現・気付き)

動くおもちゃを作ろう!⑤⑥⑦⑧

空気自動車	ペンギンレース	びゅんびゅんサッカー	ころころカー	ロケットボン	風船カー	びよこんパック	ゴム鉄砲
-------	---------	------------	--------	--------	------	---------	------

- ・こんなのができたよ。
- ・材料が足りないな。
- ・これでいいのかな。
- ・思った通りにいかない。
- ・なかなか難しいな。
- ・できないから他のものにしよう。
- ・まっすぐ飛ばないな。
- ・全然進まないよ。
- ・タイヤがつけられないよ。
- ・タイヤが上手く回らないな。
- ・走ったけどすぐ止まっちゃう。
- ・困ったな。
- ・できたけどなんかつままない。
- ・もうわからなくなってきちゃった。

困ってるんだけど、どうしたらいいかな?⑨

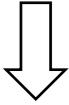
空気自動車	ペンギンレース	びゅんびゅんサッカー	ころころカー	ロケットボン	風船カー	びよこんパック	ゴム鉄砲
空気が当たるところを大きくすればいいんだよ。	風をもっと強く当てないといけないかな。	もっとフィールドを広くすればいいよ。ボールが重すぎるから軽くしなきゃ。	電池の大きさを小さくした方がいいと思う。	飾り付けをしたらもっと良くなると思うな。	ストローの太さを変えてみたら面白いかも。タイヤはキャップがいいかもね。	輪ゴムを2本にすると高く飛ぶと思うな。引っかける位置も大事だよ。	飛んでいくのがゴムだけじゃない方がいい気がする。

おもちゃを直してみよう！⑩

- ・あ、なるほど。そういうことか。
- ・直してみたら上手くいったよ。
- ・いっぱい走ようになった。
- ・これで遊びたい。
- ・もっと改造したいな。
- ・友達と一緒にやるとすぐ相談できていいね。
- ・手伝ってもらったよ。
- ・他のも作りたい。
- ・広いところで試したい。
- ・友達と競争したいな。

条件を変えることで、おもちゃの動きが変わることに気づき、自分や友達のおもちゃをよりよくするため工夫を考えている。
(思考・表現・気づき)

・友達のおもちゃも遊んでみたいな。



友だちのおもちゃを見たり、遊んだりしながら自分のおもちゃと比べられるように、時間を十分にとる。

みんなのおもちゃであそぼう！⑪⑫

- ・面白い。 ・これも作ってみたい。 ・こうやって作ればいいのか。 ・もっと遊びたい。
 ・1年生にも遊んでもらいたい。 ・そろそろ1年生を呼べそう。 ・でも準備が必要だね。



1年生が楽しく遊べるためにはどんな準備が必要だろう？⑬ (本時) ⑭

招待状	看板	スタンプラリー	景品	かざりつけ	本番の練習	ルール	おもちゃ
・いつやるかわからない。 ・急に来たら困っちゃう。 ・ちゃんと呼ばないと来ないかもしれないよ。 ・楽しみにしてほしいから。	・どこに何があるかわかるようにする。 ・おもちゃの名前を知ってもらいたい。 ・1年生が迷わないようにするため。	・どこに行きたかわかるようにするため。 ・スタンプが足りないよ。 ・スタンプカードが邪魔になるかも。	・遊んでくれたんだからあげたい。 ・あげたら喜んでくれる。 ・思い出に残ると思うな。 ・おもちゃで楽しんでほしいから景品はどうかな...	・教室も飾り付けた方がおもちゃセンターっぽいのよ。 ・そっちの方が1年生も楽しいと思う。	・やってみないとわからないこともある。 ・1年生が困らないようにしとかなきゃ。	・ルールをしっかりと決めないといけない。 ・1年生にわかりやすいように。 ・説明する人が必要だね。	・もっと用意しない。 ・壊れないように頑丈にしよう。 ・修理するところがある。

みんなで楽しく遊べるように、遊びのルールを考え、それらを素直に表現している。
(思考・表現)



話がずれてしまうときには立ち止まり、めあてを確認するよう声をかける。

自分の考えを一人ひとりが持っている状態で話し合うことで、みんなが話し合いに参加できるようにする。

おもちゃセンターの準備をしよう！⑮⑯

- ・車を走らせるコースを準備しよう。
- ・的を作らなきゃ。
- ・飾り付けや絵を描こう。
- ・教室も飾り付けよう。
- ・看板を作って何があるかわかるようにしてあげよう。
- ・1年生にもわかるよう簡単なルールにしないとね。
- 招待状を作って渡しに行こう。 ・これで1年生を呼べそうだね。 ・楽しみだけど緊張するな。

遊びのルールの工夫によって、友達と楽しく遊べるようになることや、みんなで遊ぶ楽しさに気付く。(気づき)



1年生を意識して活動できるように、めあてを確認するよう声をかける。

おもちゃセンターを開こう！⑰⑱

- ・たくさん喜んでくれてよかったな。
- ・楽しかったって言ってもらえたよ。
- ・また1年生を招待したいな。
- ・まだまだ遊びたいな。
- ・おもちゃを持って帰りたい。
- ・1年生におもちゃをすごいって言ってもらえた。

自分たちが作ったおもちゃで、みんなで楽しく遊ぼうとしている。
(関・意・態)



おもちゃセンターの片付けをしよう！⑲

6. 本時について

(1) 本時目標

1年生に楽しんでもらうためにはどんな準備が必要か考え、友だちと話し合ったり考えを聞いたりすることを通して、おもちゃセンターについての自分の考えを素直に表現することができる。

(2) 本時の展開

学 習 活 動		教師の支援・手立て・評価
<p>1年生にえがおで楽しんでもらうためにはどんな準備が必要かな？</p> <p>ぜったいやること！</p> <p>ルール</p> <p>かざりつけ</p> <p>しょうたいじょう</p> <p>スタンプラリー</p> <p>けいひん</p> <p>(教室)</p> <p>しょうたいじょう</p> <p>お手紙</p> <p>チケット</p> <p>かんばん</p> <p>ポスター</p> <p>おもちゃ</p> <p>けいひん</p> <p>うけつけ</p> <p>本番のれんしゅう</p> <p>スタンプラリー</p> <p>(シール)</p>		<p>○この学習のめあてとともに本時のめあての確認をすることで、1年生への思いと学習意欲を高めるようにする。</p> <p>○はじめに隣同士で意見を交流することで、自分の意見に自信を捨てるようにする。</p> <p>○子どもたちで話し合うという姿勢を大切にしつつ、話があるんところに行ってしまうときは、立ち止まるよう声をかけたりめあてに戻るよう声をかけたりする。</p> <p>○「1年生」という相手意識持って話し合いができるように、めあてや前時までの学習をまとめた模造紙を、意図的に見えるところに置いておく。</p> <p>○「そっか」「なるほど」「でも…」などの言葉を教師が認めるようにする。</p> <p>○学習のふりかえりを行い、話し合いを経た自分の考えや、次時でやりたいことをかけるようにしておく。</p> <p>◆みんなで楽しく遊べるように、どんな準備が必要か考え、素直に表現している。</p> <p>【思考力・表現力】</p>
○1年生がいつやるのか	○どのお店に行ったかわかる	○もらえないとかなしい
わからない	○やったことがわかる	○思い出にのこる
○来ないかも	○楽しくなる	○もらえるとうれしい
○きゅうによんだらたいへん	○いっぱいあつめるぞ	○まよ年もらってうれしかった
○びっくりしちゃう		○2回うれしい
	スタンプめあてじゃない	
	おもちゃを楽しんでほしい	けいひんめあてじゃない
かんばん		おもちゃを作るのに時間をつ
		かいたい
○どこになにがあるかわからない	×スタンプが足りない	
○名前を知ってほしい	×おす人がいないといけない	
○何のあそびかわからない	×スタンプがほしくてきちゃう	×ぜんいん分よういするのは
○ぐちゃぐちゃになる		たいへん
		×おもちゃで楽しんでほしい
		×けいひんを作るよりおもちゃ
		をレベルアップ

7. 実践を終えて

【単元について】

本単元は、4月に「2年生の生活科の学習では、どんなことをしたいか」について話し合ったときに出た、「前の2年生みたいにおもちゃを作って1年生を招待したい。」という思いを大切に進めてきた。さらに、「1年生に笑顔で楽しんでもらうためにうごくおもちゃセンターを作ろう！」という単元のめあてを子どもたちが自ら考えて活動することで、どの活動でも「1年生に」という意識をもちながら行うことができた。また、子どもの発言やワークシートに書かれている考えなどから、子どもたちが次の活動では何をしたらよいのか考えるようにすることで、自分たちが授業を作っているという意識を高めながら活動を行うことができた。

【成果と課題】

子どもたちの「1年生を招待したい」という気持ちを中心に単元を進めることができた。さらに場の工夫として、子ども同士の距離を近づけるために机をなくして話し合いを行った。よって、子どもたちの発言も増え、話し合いが活発に行われていたことは成果であると考えられる。また1年生を招待する前に、「1年生からどんな言葉が出てきてほしいか」を考える活動を入れたことで、より本番の具体的なイメージをもつことができ、実際に言われたときに達成感を感じて、喜んでいる姿が見られたのも成果である。

本時では「1年生に笑顔で楽しんでもらうためには、どんな準備が必要だろうか？」という学習問題で話し合いを行った。しかし、子どもたちにとって「準備」というのは、楽しませるための準備なのか迎えるための準備なのかなど人によってとらえ方が違っていった。よって、なかなか論点がまとまらず、深いところまで話し合うことができなかった。話が散ってしまっているときに、意図的指名や問題に立ち返るよう声をかけるなど、教師が出ていく場面を見極めていくことが課題である。

積極的に意見を言う子にばかり目がいったことも課題として挙げられる。考えは持っているがなかなか自分から手を挙げるできない子や、小さな声でつぶやいている子の声を拾うことができなかった。そのような子の考えを拾い、全体に共有することで、より多くの考えに触れることができ、自分の考えと比べたり新たなことに気付いたりしたと考えられる。さらに集中が切れてしまい、話し合いに参加できていない子への声かけもあまりできていなかった。教師として、全体を見ることができ視野の広さと、どんなに小さなつぶやきも逃さないような傾聴力、そして焦らず冷静に対応するための余裕をもって授業が行えるよう意識していきたい。

板書もはっきりと子どもたちにわかりやすく示すことができていなかった。「1年生に笑顔で楽しんでもらうための準備」として「いる」のか「いない」のかをはっきり示していれば、話し合いがよりスムーズに行われ、子どもたちの考えが分かれそうなところで時間を割くことができ、より深い話し合いになったと考えられる。

さらに、4月から意識してきた「話し方」「聞き方」についても子どもたちの中で差があった。話し方は相手に伝わる声で、友だちの方を見て話すことを指導してきたが、どうしても教師の方を向いて話してしまい、話し合いと言うより発表に近くなってしまった場面もあった。聞き方も話している人の方に目と耳と体を向けて聞くように指導してきたが、話し合いが後半になると違うところを向いてしまう子も増えてしまった。続けてきた指導が浸透しているところもあったが、まだまだ全員に浸透しているというわけではなかった。聞き手・話し手の指導を今後も継続し、他の授業での話し合いの場面や今後の学年が上がったときにもいかにできるようにしていきたい。

本時だけにとどまらず、適切なところで教師が出ていき、子どもたちの話し合いを深められるようにサポートしていかなければいけない。しかし、教師が出過ぎてもいけない。子どもたちが、待っていれば教師が何かしらしてくれるというような受動的なスタンスになってしまう。子どもの思いや願いを受け止めつつ、教師が出て行くタイミングを見極められる技量を身につけていくことを今後の課題にしていきたい。